

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和05年03月17日

計画の名称	圏央道・新国道4号を軸とした茨城埼玉交流圏域活性化計画												
計画の期間	平成28年度～令和02年度(5年間)								重点配分対象の該当				
交付対象	埼玉県												
計画の目標	茨城県と埼玉県を東西に連携させる首都圏中央連絡自動車道の開通と、南北に連携させる国道4号(春日部古河バイパス)の4車線化整備により、両県の2つの主軸として効率的なネットワークが形成された。この交通流の変化を契機に、県境を越えた交流・連携した取組により地域の価値を高め、魅力あふれる圏域づくりを進めていくことにより、新たな観光ルートの設定や各観光施設間の連携強化を図る。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	1,244	A	1,244	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H26)	中間目標値 (H30末)	最終目標値 (R2末)
1	【茨城県・埼玉県 共通目標】 観光入込客8,233千人(H26)から8,331千人(R2)に1.2%増加を目標 【茨城県・埼玉県 共通目標】 観光客数 (観光客の増加割合) = (評価時点の観光客数 - H26の年間観光客数) / (H26の年間観光客数)	8233千人	8297千人	8331千人
2	うち、埼玉県(茨城埼玉交流圏域内)においては、観光入込客数を7,608千人(H26)から7,700千人(R2)を目標 茨城埼玉交流圏域における観光客数 (観光客の増加割合) = (評価時点の観光客数 - H26の年間観光客数) / (H26年間観光客数)	7608千人	7669千人	7700千人

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
【評価の実施予定】 中間：平成31年3月予定 事後：令和3年3月予定														

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H28	H29	H30	H31	R02			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
広域連携事業	A11-001	道路	一般	埼玉県	直接	埼玉県	都道府 県道	改築	(一)幸手境線・権現堂	1.4km(バイパス)	幸手市						808	-	
	A11-002	道路	一般	埼玉県	直接	埼玉県	都道府 県道	改築	(一)蓮田杉戸線・新橋 通り	0.9km(バイパス)	杉戸町・宮代町						0	-	
	A11-003	道路	一般	埼玉県	直接	埼玉県	都道府 県道	改築	(一)蓮田杉戸線・黒浜 バイパス	0.6km(バイパス)	蓮田市						176	-	
	A11-004	道路	一般	埼玉県	直接	埼玉県	都道府 県道	改築	(一)加須幸手線・大桑 鷲宮バイパス	2.4km(バイパス)	久喜市・加須市						70	-	
	A11-005	道路	一般	埼玉県	直接	埼玉県	S街路	改築	(都)杉戸久喜線・春日 部久喜線・和戸	0.2km(バイパス)	宮代町						190	-	
	A11-006	推進事業	一般	埼玉県	直接	埼玉県	-	-	茨城埼玉交流圏広域観光 推進事業	パンフレットの作成 等	圏域全体						0	-	
		3-A1-201																	
												小計						1,244	



事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
事業主体にて評価を実施し、その結果を埼玉県県土整備部公共事業評価検討会議及び埼玉県公共事業評価監視委員会に報告し参考意見を聴取する	令和4年10月
	公表の方法 埼玉県県土整備部道路街路課のホームページに掲載
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	最終目標値は達成できなかったものの、一定の成果は見られており、圏央道、国道4号を軸とした、県境を超えた交流・連携した取組により地域の価値を高め、魅力あふれる圏域づくりを進めたことにより、新たな観光ルートの設定や観光施設間の連携強化に大きく貢献できたと考えられる。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
次期計画の「大観光時代に対応した広域的観光活性化計画（重点 ）（R3～R7）」にて、引き続き、基礎的な観光力の向上に資する道路整備を図る。	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	8,331千人	
	最終目標値	8331千人
	最終実績値	7058千人
2	7,700千人	
	最終目標値	7700千人
	最終実績値	4778千人